

## ユニーク税

幕別町立幕別中学校 三年 渡邊 正宗

この作文を書くにあたって、今まであまり触れてこなかつた「税金」についてたくさん調べてみた。しかし調べれば調べるほど、「法人税」、「市町村民税」、「地方交付税交付金」など聞いたことのない、意味のわからない言葉ばかりが続いていた。しあんな中でも、見たことのある文字、目を引くものがあった。それは、犬税（ペット税）というものだ。

犬税とはドイツやオーストリア、スイスなどで存在する、犬を飼っている家庭に税金を課す制度のことだ。では、なぜこのような税金があるのだろうか。それは、昔のドイツでは「犬の多頭飼育」が発生していたため、殺処分を避けよう、飼うことにつかりと責任を持たせよう、そんな思いからだつたらしい。現在、ドイツでは一頭犬を飼うことで、百二十ユーロ、日本円で約二万円ものお金を年に一度、犬税として納めることができが定められている。そのお金は、犬の糞の清掃など街をきれいにすることに使われているという。ドイツの人々は犬が大好きだから、犬を思つてはいるからこそ、犬税というものに反対しないのだ。つまり、犬税があることで街はきれいになり、また人々もより犬を大切にするようになったことがわかつた。他にもハンガリーでは国民の肥満防止を目的とする「ポテトチップス税」が存在したり、イギリスでは都市部の渋滞を解消させるため、「渋滞税」が課されているなど、固い税金だけではなく、ユニークな税も世界中にあふれていることを、僕は調べてみて知ることができた。今までは、「税金は、人々の安全や便利な暮らしを成り立たせるためにある」と知つていても難しい言葉ばかりで「税金」というものの実感がなくどこか避けていた。しかし、今回、ユニークな税を深く調べてみると税が課されたときの人々の気持ち、税を課す政府の気持ち、そういうことを想像して、身近に簡単に「税金」を考えることができ、もつともつと税金を知りたくなつた。「税金」は避けるものではなく、とても面白いものだと、そう心に新しく刻まれたのだ。